

「感染症と抗体の話」

大阪代協

損害保険トータルプランナーの会

京都府大・塚本教授招きセミナー

大阪代協・損害保険トータルプランナーの会(黒石光寿会長)は10月



セミナーの様

31日午後3時から大阪市北区の同代協会議室でセミナーを開催し、30名が出席した。

講演に先立ち、黒石会長が「この会に一人でも多くの人たちが参加してもらい、活性化を図って

いきたいので、仲間に声をかけていっていただきたい」と挨拶。講演は京都府立大学生命環境科学研究科動物衛生学研究室教授(獣医師・獣医学博士)・塚本康浩氏の「感染症と抗体の話」。同氏はダチョウの卵から抽出した抗体を用いて新型インフルエンザ予防のためのマスクを開発するなど、ダチョウの抗体を利用したさまざまな研究に取り組ん

でいる。インフルエンザウイルスは、アフリカ大陸のジャマカや猿のウイルスから入る。今、飛行機が発達しているために世界の感染症のスピードが早くなっている。マスクと消毒が欠かせないという。ダチョウは地球最大の鳥で二足歩行で時速60kmで歩ける。寿命も60年。凶暴なところはあるが、年間120個の卵を産むため、低コストで抗体を作ることができる。ダチョウに抗原免疫を注射し卵から抗体を抽出する。伝染病などへの抗体だけでなく、花粉症などアレルギー症状にも応用でき、マスクもすでに出ているという。

大阪代協 大阪マラソンで沿道ボランティア

大阪代協(黒石光寿会長)は10月26日行われた、第4回大阪マラソンのボランティアに参加。第1



沿道でランナーを応援

回からの連続参加で今回は14名が参加した。

ボランティアは沿道整理で、大國町の交差点から西に入ったエリアの沿道の両側を担当。黄色のボランティアウェアを着て、沿道を整理しながらランナーに声援を送っていた。